

令和5年度 我が校の学ぶ力向上策

【市町 目標】
 ○「読み解く力」向上を図るための授業開発、実践の推進を図る。
 ○「主体的・対話的で深い学び」「個別最適化学び」のツールとしての効果的なICT活用の促進を図る。
 ○いじめを許さず、支え合い学び合う集団を育てる学級、学校づくりの充実を図る。

【学校 目標】
 ○ゴールを明確にし、継続・挑戦できる学習の提供と学びが自覚できる振り返りの充実。
 ○支持的学習集団づくりを行い、ペア・グループ学習を活用した協働的な学びの推進。
 ○学びのルールの徹底と環境づくりを深め、「学びたくなる学校」の創造。

【現状と課題】
 ○視点1 学習に対して受動的な児童が多いため、自分の考えを持つことや書いたりまとめたりすることを大事にし、発信する力を付ける必要がある。
 ○視点2 学級の雰囲気づくり、人間関係づくりに努めているが、自尊心が低く、単学級による固定化した人間関係の中で過ごすため、学習場面でもダイナミックな学び合いにつながりにくい。
 ○視点3 全学年単学級であるため、教師も授業参観や学び合いがしにくい環境である。

取組事項および評価指標

※評価：【達成状況 90%以上→A 70%以上90%未満→B 70%未満→C 時期→1回目：9月 2回目：2月】

【視点1】学びを実感できる授業づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○ゴールを明確にした単元・授業の展開と学びが自覚できる振り返りの充実 ○家庭学習(予習・復習、自主学習)の奨励	・学期毎に子どもアンケートを行い、成果を確認する。(授業が楽しくてわかりやすいの強い肯定的評価を52P→60P以上に) ・学期毎に子どもアンケートを行い、成果を確認する。(家で進んで学習していますの強い肯定的評価を35P→45P以上に)		

【視点2】学ぶ意欲を引き出す学習集団づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○居心地の良い学級づくりの推進(一人ひとりを大切に授業・勇気づけのボイスシャワーの取組) ○肯定的な関係を進める学級活動・学級づくりの推進(こころほかほかタイムの実施)	・hyper-QUで成果を確認する。(「8.クラスでみんな仲よく協力、9.人いろいろなことをするのが楽しい」の強い肯定的評価を61P→70P、72P→80P以上に) ・学校評価(自己評価)で「肯定的な関係を進める学級活動・学級づくりの推進」の肯定的な回答を80%以上に ・学校評価(自己評価)で「子どものよさや可能性を積極的に見出し、支援・評価することができたか」の肯定的な回答を80%以上に		

【視点3】子どものために一丸となって取り組む学校づくり			
取組事項	評価指標	1回目 評価	2回目 評価
○教職員の授業力向上を図るために、チームで授業を考える、OJT指導案検討会の実施 ○「学習環境部」による学びの軌跡が蓄積できる掲示等、学びを楽しむ環境づくり	・学校評価(自己評価)で「学びが自覚できる振り返りの実施」の肯定的な回答を80%以上に ・学校評価(自己評価)で「ゴールを明確にし、継続・挑戦できる学習の提供」の肯定的な回答を80%以上に ・学校評価(自己評価)で「計画性をもって校内研究、校内研修が行えたか」の肯定的な回答を80%以上に		

◇「学ぶ力向上策」の実効性を高めるために、いつ、どのように職員全体で共通理解を図り、共通実践し、検証・改善していくのか、時期や手立て等を記載してください。

・4月の職員会議において学校長が教育目標や学校経営方針等を伝え、学ぶ力向上推進委員会で、「学ぶ力向上策」について説明するとともに、それぞれの取組事項に対する具体的な方策について協議する。また、取組事項は学校ホームページ等で保護者や地域に発信する。
 ・全教職員で具体的な取組について共通理解し、視点1については学ぶ力向上推進リーダー、視点2については教務主任、視点3については研究主任が中心となって、組織的に実践につなげる。
 ・定例職員会議では、取組の状況等を共有し、7月の学校評価や子ども・保護者アンケート、全国学力・学習状況調査やhyper-QU等の調査における数値や意見等をもとに、改善策について学ぶ力向上推進委員会でまとめ、9月の職員会議で共有し、後半の取組につなげる。また、それぞれの取組事項に対する中間評価結果を学校だより等で保護者や地域に発信する。

今年度の取組の成果と課題